

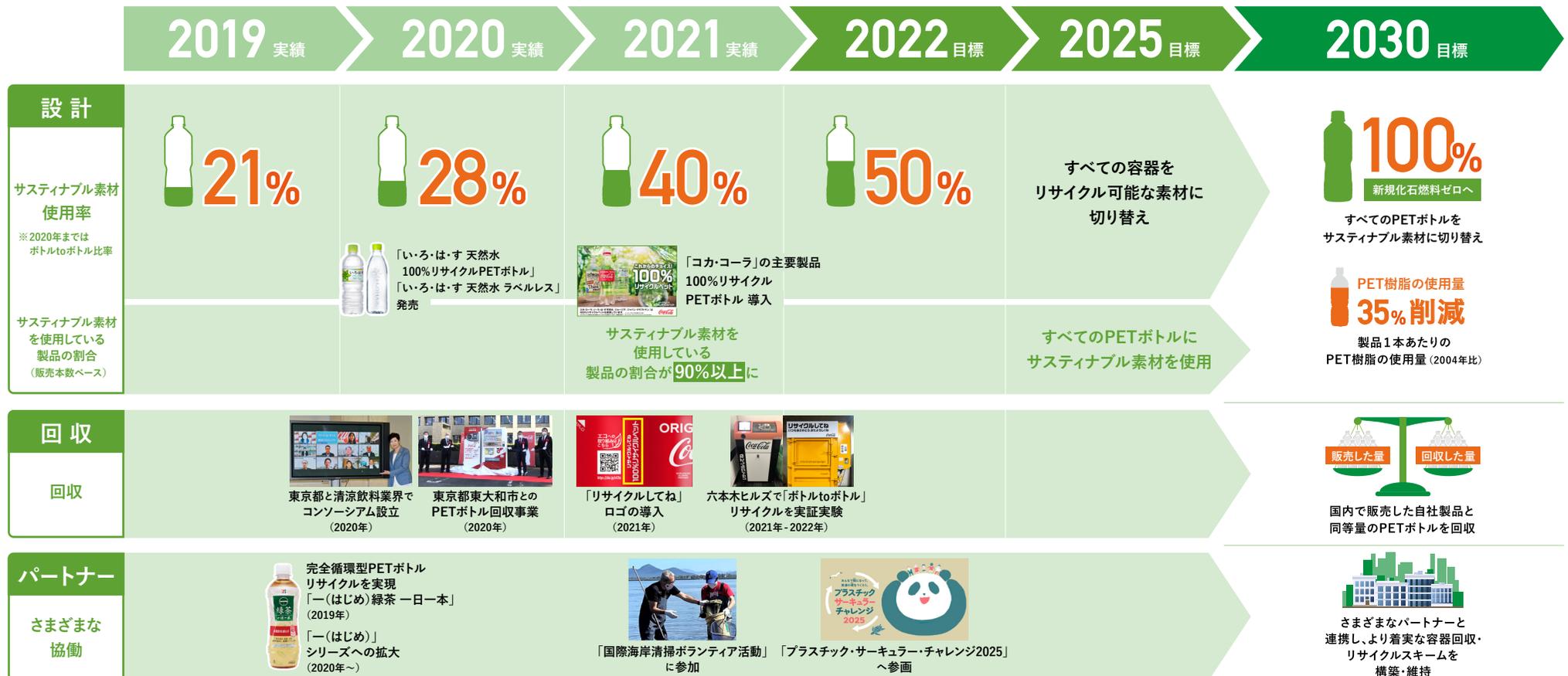


## 容器の2030年ビジョン

日本のコカ・コーラシステムは、グローバルビジョン「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」に基づき「設計」「回収」「パートナー」の3つの柱からなる活動に取り組み、容器由来の廃棄物削減と、日本国内におけるプラスチック資源の循環利用の促進に貢献しています。

「ボトルtoボトル(水平リサイクル)」「ラベルレス・パッケージレス」「容器の軽量化」を推進し、2025年までにすべてのPETボトル製品にサステナブル素材※を使用し、2030年までにすべてのPETボトルを100%サステナブル素材へ切り替えることなどを目指しています。 ※サステナブル素材：ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

### 日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン」(ロードマップ/実績)



※サステナブル素材：ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計 ※「回収」の取組詳細はP.12へ ※「パートナー」の取組詳細はP.13へ

## 容器の2030年ビジョン

## ① 設計

## 「ボトルtoボトル (水平リサイクル)」の推進により、100%リサイクルPETボトルの導入を拡大

日本のコカ・コーラシステムでは2018年1月に発表した「容器の2030年ビジョン」に基づき、2025年までにすべてのPETボトル製品にサステナブル素材を使用し、2030年までにすべてのPETボトルを100%サステナブル素材へ切り替えることなどを目指しています。2021年5月には「コカ・コーラ」などの旗艦製品へ100%リサイクルPETボトルを導入したことなどが寄与し、コカ・コーラシステム全体の国内の清涼飲料事業におけるPETボトル容器のサステナブル素材使用率は40%に到達しています。現在\*1、国内で販売する5ブランド(「コカ・コーラ」「ジョージア」「い・ろ・は・す」「ー(ははじめ)」「ボナクア」)37製品に100%リサイクルPETボトルを使用しています。また国内で販売している90%以上のPETボトル製品\*2に、サステナブル素材が一部または全部使用されています。コカ・コーラシステムは引き続き、「ボトルtoボトル(水平リサイクル)」の推進などによる100%リサイクルPETボトルのラインナップ拡大と、容器由来の廃棄物削減を通じ、プラスチック循環型社会の実現に貢献します。

\*1 2022年2月時点 ※2 販売本数ベース



## 「リサイクルしてね」ロゴを約50%の製品に導入

コカ・コーラシステムではプラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として、2021年より、すべてのリサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴの導入を進めています。2022年2月時点で販売中の製品の約50%に「リサイクルしてね」ロゴの導入を完了し、さらに順次拡大中です。「リサイクルしてね」ロゴは、製品パッケージのみならず、広告物やPOP、リサイクルボックス等にも使用し、消費者のみなさまへのコミュニケーションを強化しています。



リサイクルしてね  
100%リサイクルペット



## 容器の2030年ビジョン

## ① 設計

## ラベルレスを強化、容器の軽量化を促進

## ラベルレス

「ラベルレス製品※1」は、製品容器からラベルをなくすことにより、プラスチック使用量を削減するとともに、ラベルをはがす手間をなくし、リサイクルのための分別を楽に行えるようにした製品です。コカ・コーラシステムでは、2020年4月に初のラベルレス製品「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」を発売。その後ラインナップを拡充し、2022年4月には、「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」100%リサイクルPETボトル350mlを、新ラベルレスボトルでオンライン限定発売しました。現在※2、ラベルレス製品は8ブランド18製品に拡大しています。

※1 2020年4月、経済産業省において「資源有効利用促進法」に基づく識別表示に関する制度の変更が実施されたことにより、すべての流通段階において外装のある販売単位より最終消費者に販売されるものに限り、ラベルによる識別マークの表示を省略することが可能となりました（オンライン通販等でのケース単位の販売を想定）。

※2 2022年2月時点

100%リサイクルPET素材を使った新デザインの「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」の発売は日本市場が初となります。

## 新ラベルレスボトル登場!



リサイクルPET 100%リサイクルPET 新ラベルレスボトルは100%リサイクルPETを使用しています。

## 容器の軽量化

日本のコカ・コーラシステムは1980年代より、缶やPETボトルをはじめとした容器の軽量化による省資源化に取り組んでいます※。1983年に41gだったコーヒー缶（内容量185gサイズ）は現在9.7gに、また1996年に発売されたミネラルウォーターのPETボトル（内容量555mlサイズ）は、2009年に当時国内最軽量の12gまで軽量化されています。2021年には従来42gだった「コカ・コーラ」の700mlPETボトルを27gへと軽量化しました。これらの取り組みを通じ、容器1本あたりのPET樹脂使用量を2021年時点で約30%（2004年比）削減しています。引き続き、内容物の保護やお客様の扱いやすさといった容器としての性能を維持向上しつつ、使用する資源量の削減に取り組めます。

※「容器軽量化の変遷」の詳細はP.43へ

42g  
2020年



27g  
2021年



コカ・コーラTM 700mlPET



個包装がないため、  
家庭のゴミを  
減らすことができます

## 「1,2,CUBE」(ワン・ツー・キューブ)

「1,2,CUBE」は、濃縮フリーズ製法により、素材のおいしさをキューブ1粒に凝縮させ、水やお湯に溶かすだけで、本格的な味わいを楽しめる新ジャンルのフリーズドライ飲料です。2021年5月にオンライン限定で発売しました。紙素材を使用したパウチを使用しており、プラスチック樹脂使用量を約13%、CO<sub>2</sub>排出量を約18%削減※できるサステナブルなパッケージを採用しています。また、個包装の必要がなく、家庭ごみを減らすことができます。 ※同型・同容量のブラパウチとの比較

## 容器の2030年ビジョン

## ② 回収

コカ・コーラシステムは全国の自治体、団体やお取引先様とともに、使用済みPETボトルの回収やリサイクルの啓発、「ボトルtoボトル(水平リサイクル)」の推進に取り組んでいます。日本国内における使用済みPETボトルの回収率は96.7%、リサイクル率は88.5%\*で、諸外国と比べても極めて高い水準にあることが知られています。使用済みPETボトルは、適切に回収されれば再びPETボトルとしてリサイクルが可能です。コカ・コーラシステムは水平リサイクルの普及推進を通じ、プラスチック資源の効率的な利用と、海洋プラスチックごみの削減に貢献します。

\*ともに2020年、PETボトルリサイクル推進協議会(可燃物に含まれて回収されている量は含まず)。

## 容器の2030年ビジョン「回収」の目標

2030年までに、日本国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収することを目指します。

## 六本木ヒルズでの「ボトルtoボトル」リサイクル実証実験

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンは森ビルが運営する六本木ヒルズ(東京都港区)において、事業系PETボトルの新たな資源循環モデルの確立を目指す実証実験プロジェクトに参画しました。このプロジェクトは環境省の「令和3年度バイオプラスチック及び再生材利用の促進に向けた調査・検討委託業務」の一環である『環境省 プラスチックの資源循環に関する先進的モデル事業』



として実施されました。 <https://www.cocacola.co.jp/press-center/news-20220124-11>

## 空容器自主回収のテスト運用を開始

北海道コカ・コーラボトリングでは、自動販売機設置先のご協力を得ながら、空容器の自主回収専用ルートをつくり、テスト運用しています。回収したものは専門業者により材質別に分別され、再度PETボトル資源として活用されています。



## ウエルシアホールディングス株式会社とのプロジェクト

ウエルシアホールディングス株式会社とコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、2020年9月、栃木県内のウエルシア一部店舗にPETボトル回収ボックスを設置し、「ボトルtoボトル(水平リサイクル)」のリサイクルモデル構築に向けた実証実験を実施。2021年以降、対象地域・店舗を拡大し、栃木県・茨城県にて本格展開しています。



## 東京都東大和市とPETボトル回収事業を推進

東大和市とコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、2020年10月、「地域活性化包括連携協定」を締結。市内のみなさまのリサイクル意識向上のきっかけとなるよう、「PETボトル自動回収機」を市内に設置し、協働でPETボトル回収事業に取り組んでいます。



## 海洋ごみ対策啓発および3Rを推進

みちのくコカ・コーラボトリングは、2021年12月、「日本財団『海と日本PROJECT』(岩手エリア事務局:IBC岩手放送)」と協働して、正しいリサイクルについての啓発を通じて海洋ごみ問題の改善を図るため、岩手県の協力も得ながら、県の3R推進キャラクター「エコロル」の造形を施した「『エコロル』リサイクルボックス」を設置しました。この取り組みは、飲料のPETボトルや缶を、ごみとしてポイ捨てすることなく正しく分別・リサイクルしてもらうための啓発の一環として行っています。



## PETボトルの回収から粉砕(フレーク化)までをグループ会社で内製化

北陸コカ・コーラボトリングでは、2002年より、グループ会社のGRNエコサイクルで容器のリサイクル事業を発足し、回収した空容器の分別・圧縮・再資源化を行っています。北陸エリアでは数少ないPETボトルの粉砕(フレーク化)までを行う中間処理業者として、公益財団法人日本容器包装リサイクル業者として認可され、各自治体(石川県白山市、野々市市、加賀市)とも連携し、PETボトルの回収リサイクルを推進しています。



## 容器の2030年ビジョン

## ③ パートナー

日本のコカ・コーラシステムは、プラスチック資源の循環型社会の実現に向け、目的意識を同じくするパートナーとの取り組みを積極的に進めています。

## 容器の2030年ビジョン「パートナー」の目標

政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通して、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持に取り組みます。

「一(はじめ)ほうじ茶」  
(セブン&アイ・ホールディングス)

株式会社セブン&アイ・ホールディングスと日本コカ・コーラによる共同企画商品「一(はじめ)」シリーズは、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みPETボトルのみをリサイクルしてつくられた完全循環型PETボトル※を採用しています。2021年11月、第三弾としての新製品3品、「一(はじめ) ほうじ茶 静岡棒ほうじ茶入り」、「一(はじめ) ほうじ茶 京番茶入り」、「一(はじめ) ほうじ茶 八女(やめ)ほうじ茶入り」にも同PETボトルが採用されています。

※ 本製品のPETボトルの原材料として、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みPETボトルをリサイクルしたPET樹脂のみを、100%使用していることを表します。

「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」  
へ参画(WWFジャパン)

日本コカ・コーラは、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)の「サーキュラー・エコノミーの原則」に賛同し、「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」への取り組みへ署名しました。日本のコカ・コーラシステムでは、2025年までに、国内で販売するすべての容器をリサイクル可能な素材に切り替え、すべてのPETボトル製品にサステナブル素材を使用することを目指しています。また、「ボトルtoボトル(水平リサイクル)」を推進し、可能な限りリサイクル素材を用います。現時点でリサイクルが困難な素材を用いている容器についても、代替素材などの研究開発を続けています。

<https://www.wwf.or.jp/campaign/pcc2025/>

PETボトルキャップの回収・アップサイクル「RETTERR」  
(認定NPO法人グリーンバード)

認定NPO法人グリーンバードは、米国The Coca-Cola Foundationの助成を受け、日本各地でのPETボトルキャップの回収と、それらを原材料とした製品づくりに取り組んでいます。グリーンバードがプラスチックごみ問題の解決に向けて2021年より展開している「RETTERR」は、グリーンバードが全国各地の清掃活動などで集めたプラスチックごみを洗浄・加工し、アップサイクルする(価値のある新たな製品に生まれ変わらせる)プロジェクトです。グリーンバードは今後、全国各地に設置予定のPETボトルキャップ専用の回収ボックスや、街や川、海での清掃活動などを通じてキャップを回収。コースターなどの製品にアップサイクルして販売し、得た収益を再び全国各地の清掃活動などに活用します。

## 2030年までに「4杯に1杯」を再利用可能な容器で提供する 新たなグローバル目標を策定



2022年2月、ザ コカ・コーラ カンパニーは再利用可能な容器の大幅な採用拡大を目的とした業界をリードする目標を発表しました。2030年までに、グローバルなブランドポートフォリオにおけるすべての飲料製品の25%以上を、ガラス製リターナブルボトルもしくは再充填可能なPETボトル、または従来のファウンテンや「コカ・コーラ フリースタイル」のディスペンサーにおける再充填可能な容器で販売することを目指します。

ザ コカ・コーラ カンパニーのエレイン・バウアーズ・コベントリー最高カスタマー/コマース責任者は、「当社はこれからも、消費者をすべての活動の中心に据えていきます。その方法のひとつが、持続可能な容器の提供です。再利用可能な容器の採用を推進することで、消費者やお取引先に付加価値を提供できると同時に、2030年までに販売するすべてのボトルや缶を回収するという当社の「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」の目標達成が後押しされます。」と述べています。

詳細はこちら(英語)

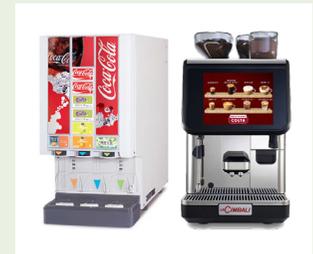
<https://www.coca-colacompany.com/news/coca-cola-announces-industry-leading-target-for-reusable-packaging>

### 日本国内で進むさまざまな「再利用可能な容器」の取り組み

#### さまざまな形態の業務用ディスペンサー

コカ・コーラシステムでは、お客様のニーズや飲用機会、店舗スペースなどに応じたさまざまな業務用ディスペンサーを展開。レストランやファストフード店、映画館やアミューズメント施設など、さまざまなシーンで利用されています。

2021年からは最大15種類のフレーバーを提供できる「コスタ」のコーヒーマシンの設置もスタートしています。



#### 消費者の新しい飲用習慣に対応する

#### 「bonaqua Water Bar」(ボナクア ウォーターバー)

日本コカ・コーラでは、消費者の新たなニーズと飲用習慣に対応するウォーターサーバー「bonaqua Water Bar」を開発。合同会社ユー・エス・ジェイ、タイガー魔法瓶株式会社の従業員向け食堂などで有償のオペレーションテストを展開中です。ユーザーが持参したマイボトルや紙コップなどに冷水、常温水、お湯に加え、強度の違う2種類の炭酸水を給水でき、マイボトルの洗浄も可能です。

\*食品衛生責任者がいる有人環境での営業が認められている機材です。



#### リターナブルガラスびんの販売継続(料飲店様向け)

1957年の国内発売以来、愛され続けている「コカ・コーラ」のコンツァーボトル。繰り返し利用できるリターナブルガラスびんは、現在でも主にホテルやレストランなど、空びんの返却が担保されている場所で使用され続けています。

